

障害保健福祉施策の基本的な方向性（参考資料）

現状	課題	方向性
<ul style="list-style-type: none"> ○障害者サービスについては地域差が大きい。 ○全国的に見れば今後もサービスの利用者が増えていくことが見込まれる。（特に知的障害者、障害児、精神障害者） 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後、新たにサービスを利用する障害者（New Comer）のニーズにどう応えるか。 ○サービスの利用の急速な伸びに対応できる仕組みをどう考えるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域生活支援、自己決定の尊重、利用者本位等の理念を発展させるため、自立支援・介護のための人的サービス、就労支援、住まい対策、発達障害支援などについて総合的に取り組む必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ○実態として、障害者と高齢者の重複多い ○障害者と高齢者とで事業所数に差異（実働数ではさらに差異が大きい） ○各地域で、身近なところでサービス提供を行うための効果的かつ効率的な創意工夫の動き 	<ul style="list-style-type: none"> ○市町村中心・地域中心に考えた場合、障害種別や年齢で分けて考えることは合理的か。 ○地域の実情に応じて、より身近なところで利用できる体制を整備する必要があるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後新たにサービスを利用する障害者を含め、地域で把握されたニーズに基づき、今後のサービスの伸びに耐えうる仕組みづくり ○障害者が地域の実情に応じて身近なところで支援を受けられる体制づくり
<ul style="list-style-type: none"> ○とりわけ青年期や壮年期には就労の持つ意味は大きいですが、福祉的就労から一般就労への移行は進んでいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域生活支援を進める観点からも一般就労への移行を進める必要があるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市町村を中心として、障害種別や年齢を超えた自立支援の体制づくり ○地域住民の納得の得られる公平な社会資源の配分
<ul style="list-style-type: none"> ○予算の伸びは在宅が大きいですが、シェアは施設等に比重 ○精神障害者は入院医療中心の資源配分 ○社会資源の公平な配分の観点からの要望 ○効果的、効率的なサービス提供のための要望 ○地域の実情に合ったサービス提供のための裁量の拡大の提案 ○ニーズの数量的把握は十分ではない 	<ul style="list-style-type: none"> ○現実に入所者や入院者がいる中で、どう社会資源の配分を地域生活支援中心に変えていくか。 ○社会的に合意の得られる社会資源の配分はどのようなものか。 ○必要なサービスを効果的・効率的に提供する仕組みはどのようなものか。 ○ニーズを把握しながら計画的にサービスを整備する仕組みが必要ではないか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○国民誰もが他人の介護や支援を受ける必要がある状態になる可能性があるが、それは高齢化に伴うものだけではない。 ○障害者については、とりわけ若年で障害を有するに至ると、介護や支援を必要とする期間が長期間に渡る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○介護や支援を社会全体で支える必要が高いのではないか。 	

障害者の自立支援のための基本的な施策体系(イメージ図)

